

静岡県立森林公園における「森林サービス産業」の取組について

株式会社ヤタロー 菊池真実
静岡県西部農林事務所 山口 亮
静岡県自然保護課 森 高洋

静岡県立森林公園は、アカマツ・コナラなどの森林や湿地・水辺をフィールドに様々な自然体験や散策などが楽しめる、年間 80 万人が訪れる公園です。公園内には、自然情報の発信や環境教育の体験型プログラムを実施しているビジターセンター「バードピア浜北」と、食を主軸とした環境教育を展開している研修・宿泊施設「森の家」の 2 つの施設があり、自然の大切さや森林・林業に対する理解を深める拠点となっています。

森の家の研修施設は、主に地元浜松市内の企業の集合研修の場として利用されてきました。地元企業に加え、首都圏や中京圏等他地域の企業にも静岡県立森林公園を利用してもらいたいと考えました。このため、企業の健康経営への貢献と地域の活性化を目的に、令和 2 年度に林野庁の補助事業である「森林サービス産業」モデル地域等創出支援事業（健康経営分野）に応募した結果、準モデル地域として選定されました。

そこで、静岡県立森林公園で実施している令和 2 年度からの「森林サービス産業」の取組について発表します。

1 はじめに

森林サービス産業とは、健康・観光・教育などが森林空間と結びつくことで生まれる新しいサービス産業です。山村地域の雇用創出や収入の機会、関係人口の創出が期待されています。国の「森林・林業基本計画」に明記されており、森林の多面的機能の発揮につながる施策として注目されています。

静岡県立森林公園で、森林サービス産業に取り組むことになった背景は次のとおりです。「森の家」の研修室の利用状況を図 1 に示します。平成 30 年度までは、順調に利用数が伸びていましたが、令和元年度から急激に減少しました。企業の集合研修で利用されることが多かった森の家では、コロナ禍での企業の集合研修の中止が利用数に大きく表れてしまったと考えられます。コロナが落ち着き、企業研修が再開されたときに、企業が再び「森の家」を利用してくれるかは不確定です。企業の研修担当者が、「研修をするなら、森の家で開催したい。」と惹きつけるような魅力を、コロナ禍のうちに作り込み、情報発信していくことが必要と考えました。そこで、着目したのが森林サービス産業です。

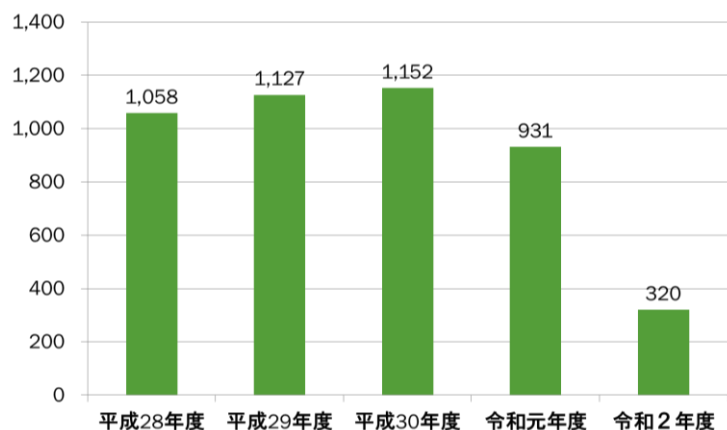


図 1 森の家研修室利用数の推移

2 森林サービス産業参入への課題整理

森林サービス産業への参入にあたり、抱えている課題を整理しました。1 つ目が施設の課題で、

前述したコロナ禍における研修室利用の減少やリモートミーティング・テレワークなど企業研修や働き方の変化、会議や研修など一堂に会する機会の減少等です。2 つ目が地域の課題で、国内でも有数な林業地帯である天竜地域を含む森林空間の活用が不十分であることや林業・森づくり活動を行う企業や団体・個人との連携不足等です。

これらの課題の解決のためには、林野庁の支援事業（企業の健康経営に着目した「森林サービス産業」創出）を活用することが有効で、かつ早い展開が見込めると判断しました。申請したところ、「バードピア浜北」及び「森の家」のこれまでの取組や、静岡県立森林公園の持つポテンシャルなどが評価されたことにより、準モデル地域に選定され、林野庁の支援を受けながら課題の解決に取り組みました。

3 準モデル地域としての取組と目指す姿の決定

令和 2 年度に準モデル地域に選定されたのを受け、「静岡県立森林公園を中心とした森林空間等のフィールドと地域の人材を活用した新たなサービスの提供」という目的を掲げ、活動を展開しました。主な取組は、課題解決型研修会の実施と各種研修会へ参加し情報収集するという 2 点です。課題解決型研修会を 11 月及び 2 月の 2 回開催し、近隣の区役所等の協力のもと、森づくり活動やノルディックウォークなど地域で活躍する多様な人材の発掘を行い、それぞれの活動内容や地域の抱える課題の共有を行いました。また、森林サービス産業に関連する様々な研修会に参加し、他地域における活動や課題等について情報収集しました。これらの取組から、現状を把握し、目指す姿を決定しました。

現状では、それぞれが持つ機能を各ターゲットに向けて提供しています。例えば、森の家を利用する企業や学校は、森の家の研修室という「場」を利用して自らが企画した研修を行っています。これに対して目指す姿は、周辺施設や地域の方々と連携し、それぞれの持つ強みを組み合わせることで、利用する企業・学校等に対し、滞在中の食事や宿泊、さらには研修内容に至るまで利用者のニーズに合わせたプランを提案し、トータルでコーディネートするサービスを展開することです。それは、利用者や施設、プログラムを提供する地域の団体・個人に至るまで、森林サービス産業に関わるすべての人にとってメリットがある Win-Win の関係性であるべきだと考えました。

4 事業化に向けた取組

令和 2 年度に打ち立てた目指す姿を達成するため、令和 3 年度から取組をさらに発展させ、森林サービスの産業化を進めました。主な取組を 3 点紹介します。

1 つ目は実施組織の立ち上げです。実施組織として、静岡県立森林公園「森林サービス産業」地域協議会（以下、協議会）を発足させました。協議会は、前年度に開催した課題解決型研修会を通じて集まった地域で活躍する団体・個人と静岡県立森林

表 1 静岡県立森林公園「森林サービス産業」地域協議会構成員

会 員	内 容
森の家	研修・宿泊・食
バードピア浜北	自然体験
特定非営利活動法人Roots Japan	狩猟
夢くらぶ	ノルディックウォーク
特定非営利活動法人ラブ・ネイチャーズ	ネイチャークラフト
Hygge femina	ヨガ
小林 愛	ピラティス
宮口まちおこしの会	ガイドウォーク・地元活性
「絵手紙のまち浜松」を育てる会	文化体験
天竜ふるさとガイドの会	ガイドウォーク・地元活性
山崎 陽康	自然体験・クラフト
浜松市	オブザーバー
静岡県くらし・環境部環境局	オブザーバー
静岡県西部農林事務所	オブザーバー

公園内の施設の指定管理者による活動を行政がオブザーバーとしてバックアップする形を取りました。表1のとおり、幅広いジャンルの方々が参画しています。

2つ目は企業への働きかけです。企業の研修担当者への案内ツールとしてパンフレット(図2)を作成し、研修担当者に売り込みを図っています。例えば、社員の健康増進に取り組みたいという企業に対して、『ノルディックウォークと管理栄養士監修の食事+健康指導』を提案し、「森林浴のリラックス効果に加え、ノルディックウォークの効率的な高い運動効果と最適な栄養バランスを考えた食事で複合的な健康効果が期待できます」というように、ニーズに合わせたオーダーメイド型のプログラムを作成・提案する際のツールとして活用しています。

3つ目は医療機関との連携です。「浜松市ウェルネス推進協議会」へ加入し、実際に健康経営に取り組む企業からの情報収集や協力体制の構築を図りました。その結果、様々な企業・団体と交流することができ、後述するモニターツアーの実施にあたり健康測定との協力を得ることができました。

静岡県立森林公園『森のカレッジ』

**貴社のニーズにあわせて、
オーダーメイド型のプログラムを
ご提供いたします。**



福利厚生やCSR活動の一環として森づくり活動に取り組みたい



職場のメンタルヘルスマネジメントに関する研修を実施したい

オーダーメイド型プログラム



社員の運動不足の解消や食生活の改善につなげたい



豊かな森林の中で心身ともにリフレッシュしたい



豊かな森林の中で心身ともにリフレッシュしたい



県立森林公園では、指定管理者と実績豊富な講師陣「森のカレッジガイド」が強固なネットワークを構築して、自然体験や野外活動、文化教養に関するプログラムを年間約450回開催・後援しております。
自然観察・ウォーキングのガイドや、ノルディックウォーク・セラピー・ヨガ・木工作等の講師、林業家、狩猟者等と、様々なニーズにお応えします。
森林公園内の施設や、豊かな森林空間を使った研修のことなら、何でもご相談ください!

図2 企業研修担当者向けパンフレット

5 モニターツアーの実施

令和3年度に、主たる目的の異なるモニターツアーを2回開催しました。

1回目は、森林空間が及ぼす健康効果の測定と医学的なエビデンスの取得・集積を目的とし、エンシュウ(株)をモニターとして、参加者26人に対しプログラムの提供、データの模擬採取を行いました。苗木の植樹を通じて森林空間をフィールドとした活動を体験し、その後、市内の医療法人が運営するメディカルフィットネス&スパNice BeaT浜松が監修する健康測定・健康相談を行いました。参加者からは、

「森林への理解が深められたことに加え、健康状態への気づきのきっかけとなった」、「上司・部下間の一体感が醸成された」と言った声が聞かれました。運営者側が得た成果として、医療機関との

表2 各プログラムにおける小林さんの感想及び評価

(出典: ForestStyle. JP・一部改変)

施設について	豊かな自然、研修・宿泊機能、食、高台から市街を臨む景色に加え多彩なアクティビティの数々と 多彩な魅力 が詰まった施設。 幅広い活用ができそう。	サービス産業に適応
ネイチャーゲーム	ゲームを通じて、普段は見落としがちな自然の作り出す様々な変化を感じ取ることができた。 幅広い年齢層が楽しめる ことが魅力。森林公園の豊かな 自然環境を有効活用 したアクティビティ。	チームビルディング研修に最適
ツリークライミング	全身を使ったアクティビティで、想像以上の運動量に驚いた。「木と友達になる」というテーマの通り、 木と、そして自然との一体感を実感 できた。景色の良さから 観光のツール としても活用できそう。	若手・新人研修に有効
森林ヨガ	森の中の澄んだ空気に包まれてゆっくりと呼吸し、体を動かすことで 心身共にリフレッシュ することができた。ヨガはハードルが高いイメージがあったが、 老若男女問わず気軽に取り入れられそう。	管理職研修に導入可能

連携が強化されたこと、エビデンスの収集方法が分かったこと、役割分担の明確化や評価・課題の分析が必要であることなどが挙げられます。

2 回目は、提供を想定しているプログラムのサービスとしての質を測定することを目的に実施しました。「ミス日本緑の女神 2021」小林優希さんをモニターとして、静岡県立森林公園内でネイチャーゲーム、ツリークライミング及び森林ヨガの3つのプログラムを体験していただきました。体験した小林さんの感想の一部を表2に示します。いただいた感想から、各プログラムについての運営側としての評価を行いました(表2)。例えば、森林ヨガはリフレッシュ効果が高く年齢問わず実施できるため、管理職研修に取り入れやすいプログラムであると評価しました。

6 個人向け「森林サービス産業」の実施

企業の集合研修は、少しずつ再開されましたが、宿泊型はまだまだ少数となっています。このため、提案型の「オーダーメイド研修」の実施は思うように進んでおりません。そこで、個人向けに森林サービス産業の展開を図りました。健康・森林環境教育を組み入れた宿泊型プランを年間10回、健康測定型プランを3回開催し、利用者の感想を収集するとともに、運営側のノウハウを蓄積しています。例えば、個人向けの宿泊型プランの一例(図4)ですが、自然観察とお月見を合わせたプランで、虫の鑑賞とお団子づくりがセットになっています。ともに講師が付き、体験しながら学べる仕立てにしています。最終日にアンケート調査を実施し、利用者の意見や感想を収集します。これら個人向けプランで得られた成果や課題は、企業向けの研修へフィードバックしています。

<p>プラン名 「中秋の名月と秋の虫の鑑賞」</p> <p>開催日 2022年9月10日(土)～11日(日)</p> <p>料 金 一回二日付</p> <p>参加費 小学生以上のご家族 一人 9000円(未就学児 4000円)</p> <p>定 員 6組 20名</p> <p>持ち物 懐中電灯、虫取りスプレー、帽子など</p> <p>備 考 長袖・長ズボン、歩きやすい靴 9/10日午前から受付開始のため、朝の開始が少し遅くなります。 ※雨天の場合は室内行事となります。</p>	<p>レストラン「まつばつり」での ご夕食のあと、お月見しながら 秋の虫の鑑賞を楽しみ、鑑賞しました。 自然観察員による虫や自然の解説が あります。</p> <p>●スケジュール ●参加費などの特典等</p> <table border="1"> <tr><td>10日</td><td>18:00</td><td>受付開始</td></tr> <tr><td></td><td>19:00</td><td>お月見開始</td></tr> <tr><td></td><td>19:30</td><td>虫の鑑賞</td></tr> <tr><td></td><td>20:00</td><td>夕食</td></tr> <tr><td></td><td>21:00</td><td>お団子作り</td></tr> <tr><td></td><td></td><td>終了</td></tr> <tr><td>11日</td><td>8:30</td><td>受付開始</td></tr> <tr><td></td><td>9:00</td><td>朝食</td></tr> </table>	10日	18:00	受付開始		19:00	お月見開始		19:30	虫の鑑賞		20:00	夕食		21:00	お団子作り			終了	11日	8:30	受付開始		9:00	朝食
10日	18:00	受付開始																							
	19:00	お月見開始																							
	19:30	虫の鑑賞																							
	20:00	夕食																							
	21:00	お団子作り																							
		終了																							
11日	8:30	受付開始																							
	9:00	朝食																							

図4 個人向け宿泊プランのポスター

7 今後の展開

これまでの様々な取組から、今後の展開として次の3点を考えています。

1 点目は、利用者のニーズに合わせて最適な内容をコーディネートし提案する「オーダーメイド式の研修プログラム」の提供です。2 点目は、医学的なエビデンスの継続集積及び分析、活用です。3 点目は、「地域の食の提供」です。レストラン運営を通じて多くの旬の食材を活用した食事を提供してきた実績と、管理栄養士が複数在籍する特徴を生かして健康的な食を提案します。さらに、地域の複数の飲食業者がそれぞれオリジナルメニューを考案し、利用者が自由に選択できる提供体制についても検討します。

今後もサービスの質を高めていき、他の場所ではなく静岡県立森林公園で、オンラインではなく現地に集まって研修を行う動機付けとなるような、オンリーワンの価値のあるサービスを構築し提供していきます。多くの人にとって、静岡県立森林公園が特別な場所となるよう、今後も進化を続けていきます。